

A 171 小児期における給食の実態 (第8報) 学校給食各食品の相互関係と
その地域比較
甲子園短大 ○富田絹子 西田美枝子 山下慶子

目的 前報と同じA市、N市、S市の小学校給食における、各食品間の相互関係を明らかにし、その地域比較を行ったので報告する。

方法 調査対象は第7報と同様、昭和55年度学校給食献立表で、A市187日分、N市192日分、S市181日分である。食品群は国民栄養調査食品群別表による21項目とし、各々について年間 $\bar{X}$ 、SD、CVを算出、さらに主な15食品群について相関行列を作成し、3市の比較を行った。

結果 (1) 学校給食基準食品構成値との比較では、3市ともに、麦類、肉類量が著しく高く、豆類、果実類、緑黄色野菜、魚介類量がかなり低値を示した。

(2) 各食品群の3市間の差の検定(t 検定)を行ったところ、A市はいも類、豆類、その他の野菜類が高く($p<0.01$)、S市は穀類、麦類、卵類が高く($p<0.01$)、N市は麦類、緑黄色野菜が最も低かった($p<0.01$)。

(3) 各食品群間に1%の水準で相関関係が見出されたのは、A市では「穀類、麦類といも類」「いも類と豆類(-)」「緑黄色野菜」「油脂類と緑黄色野菜」など、N市では「穀類、麦類といも類」「麦類と菓子類(-)」「魚介類」「いも類と果実類」「豆類と緑黄色野菜(-)」、その他の野菜(-)、乳類(-)」「果実類と緑黄色野菜」「緑黄色野菜とその他の野菜」「魚介類と肉類(-)」など、S市では「いも類とその他の野菜」「豆類と果実類、卵類(-)」「果実類とその他の野菜(-)」「魚介類と肉類(-)」などで、都市によりかなり異った傾向を示した。